

逗子ゼロ・ウェイストの会

①	逗子ゼロ・ウェイストの会 共同代表:田中尚武・海野保子	活動地域 逗子市
②	2009年5月	
③	廃棄されてしまう資源の回収や資源の有効活用、焼却に頼らない 廃棄物処理の実現などにより、持続可能な資源循環型社会を構築する	
④	エコ広場ずし、フードドライブ、出張エコ広場、リペアカフェ、エコワークショップ、キエ一口ほか	
取材者名:大杉恭子(福祉クラブ生協)、菅原順子(未来機構)		

ゼロ・ウェイストは、困りごとをシェアするたすけあいの活動……

逗子ゼロ・ウェイストの会の新たな拠点となつた「エコ広場ずし@仲町橋(赤い橋)」で共同代表田中尚武、同海野保子のお二人に話を聞いた。猛暑だったが、古民家の中は扇風機だけでもしのげるほど。5人ほどのメンバーが、着物や婦人・紳士・子供服、おもちゃ、食器類等の持ち込み・

新たな拠点
「エコ広場ずし@仲町橋(赤い橋)」

持ち帰り自由の「もったいない市」の運営や、集まった着物の整理などをしていた。

この会は、最初の代表となった松本真知子さんが(生活クラブで瓶の回収をやっていた)、ごみ問題を何とかしたいと逗子市議会議員になり、ゼロ・ウェイスト宣言を日本で初めて行った徳島県上勝町を視察。市役所玄関脇(後にホール内)で不用品を持ち寄って交換するという活動を開始した。ゼロ・ウェイストとは、モノの無駄遣いをせず、リデュース・リユース・リサイクルなど7Rを進め、また生産段階から処理に困らない製品をつくることで、焼却・埋め立て処理されるごみをなくしていくという理念。この理念に基づき、2009年5月8日、廃棄されてしまう資源の回

収や、資源の有効活用、焼却に頼らない廃棄物処理の実現などにより、持続可能な資源循環型社会「ゼロ・ウェイストのまち逗子」を構築する事業を、逗子市及び市内環境諸団体・市民と協働するための組織として任意団体「逗子ゼロ・ウェイストの会」が設立された。海野さんは、ごみ問題を入り口としたこの活動は、困りごとを互いにシェアするたすけあいの活動だと強調した。「シルクロードと同じで、ものと人が動くことで、コミュニティができ、人のつながりができる」という。

その言葉通り、さまざまな活動団体と15人ほどの「エコ広場ずし運営委員会」を形成し、エコ広場ずし、フードドライブ、出張エコ広場、リペアカフェ、エコワークショップ等の活動を続けてきた。運営委員会は毎月開催し、毎回12~13人の参加があるという。



和室を改装して展開する
「もったいない市」



共有スペースで着物の整理



沼間公民館での出張エコ広場